

年代	国・京都府	丹後	上世屋地区(森林面積約620ha/全面積約650ha)	土地利用秩序の変化
1900-1930		1900年頃46.8%の土地は共有地 サバエ刈りによる緑肥の採取 養蚕と牛の肥育を伴う稲作農業が盛ん 山間地では若干の焼畑 山間集落ではササ葺き民家が卓越 1925年 隣村木子集落で大火	1908年 集落大火 →奥地(オクヅ)の共有林を大坂大林区(国有林)に売却 →国有林広葉樹資源からの炭生産で復興 1920年頃まで山を越えた内山集落ではブナのあがりこを薪利用 1929年 上世屋集落60戸	集落からの距離、地形条件にあわせた土地利用秩序が存在
1930-1960	1939年 府木炭増産の奨励 1950年代末より府内の薪炭消費量激減	化学肥料普及によりサバエ刈り停止 戦前、パルプ材需要での広葉樹伐採始まる 京都府の地方事務所設置 戦中、アカマツから松根油採取のため強制伐採 1950年代アカマツをパルプ材として乱伐 1959年 隣村木子集落で大火	1944年 集落大火 →共有林(観音山)を開放し、炭生産で復興資金に 1950年頃までに全戸復興 (→戦後にも関わらず非常に伝統的な工法での再建、ほぼ地元材) 1954年 世屋村合併して、宮津市に 1958年ころ オクヅの残りの共有林を国有林に売却をはかるも思っていたより面積狭く断念	大きな土地利用秩序は保たれるものの、利用方式の多様性が失われていく
1960-1990	1960年 木材輸入自由化 1968年 府内の木炭生産量10年前の1/10に 1970年 コメ生産調整本格化 1987年 リゾート法	焼畑停止 プロパンガス普及 1963年 三八豪雪 三八豪雪以降離村廃村相次ぐ 1960年代後半丹後ちりめん好景気 国有林での拡大造林 1982年 丹後国営農地開発始まる	1960年代 ササ集団開花枯死 1960年代後半までで炭焼きほぼ停止 1968年 以降男性住民の多くが宮林署の作業員に従事 →国有林での拡大造林を担う 1970年 上世屋集落38戸 この頃までに農家での役牛の飼養停止 女性には機織りに従事するように 1973年 丹後縦貫林道開通 →以後パルプ材の広葉樹伐採盛んに 1977年 上世屋の棚田での無農薬米契約栽培開始 1982年 世屋の里協会(後のふるさと協議会)発足 1984年 世屋高原旅行村開園(世屋の里協会管理運営) 1986年 一般のササ葺き民家なくなる(公的施設のみに) 藤織り保存会活動開始	従来の利用秩序と異なる場所での大規模な植林の展開 異令林パッチの均質化 ランドスケープ中での若齢林・草地の減少 ササ葺き慣行ほか伝統文化の維持が集落だけでは困難に
1990-	2000年 中山間地域等直 接支払制度 2003年頃より自然公園拡大の動き	1990年頃より官行造林盛ん 1990年代後半よりナラ枯れ拡大 2000年代に入り獣害拡大 2002年 内山ブナ林府自然環境保全地域に指定 2007年 国定公園拡大	1991年 丹後の藤織り民俗無形文化財指定 1994年 火災で3戸全焼 1996年 上世屋集落12戸 2003年 NPO法人里山ネットワーク世屋設立 2004年 台風23号による激甚被害 2005年 ササ葺き実習棟再生開始 2007年 集落全域が国定公園に指定 台風23号による被害民家を解体調査	耕作面積激減 過疎と高齢化の著しい進行 集落に関する人々の入れ替わりと、新たな景観保全の動き